


# 『主体的・対話的で深い学び』を実現するための実践研究事業」教材研究会レポート No.4-①

**南国市立香長中学校 教材研究会**  
 令和元年7月26日(金)  
 国語科 第2学年「モアイは語る」  
 提案者 国語科部会

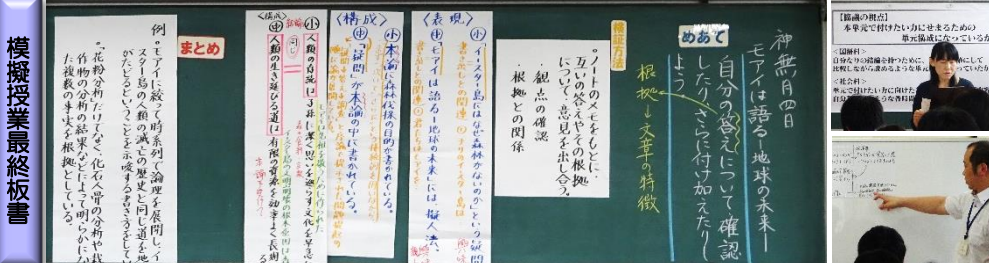


学習指導要領の主旨を具現化した授業づくりを目指すために、教材研究の再考と更なる充実が求められています。すなわち、見方・考え方を基盤に学びの系統を捉え、単位時間の授業改善という視点を越えて、単元開発の研究に向かうことが、今、期待されています。教材研究をするということは、単元をつくるということです。そして、その単元は目の前の子供にとって最適であるかどうかを常に見つめながら、繰り返し続ける姿勢が大切です。

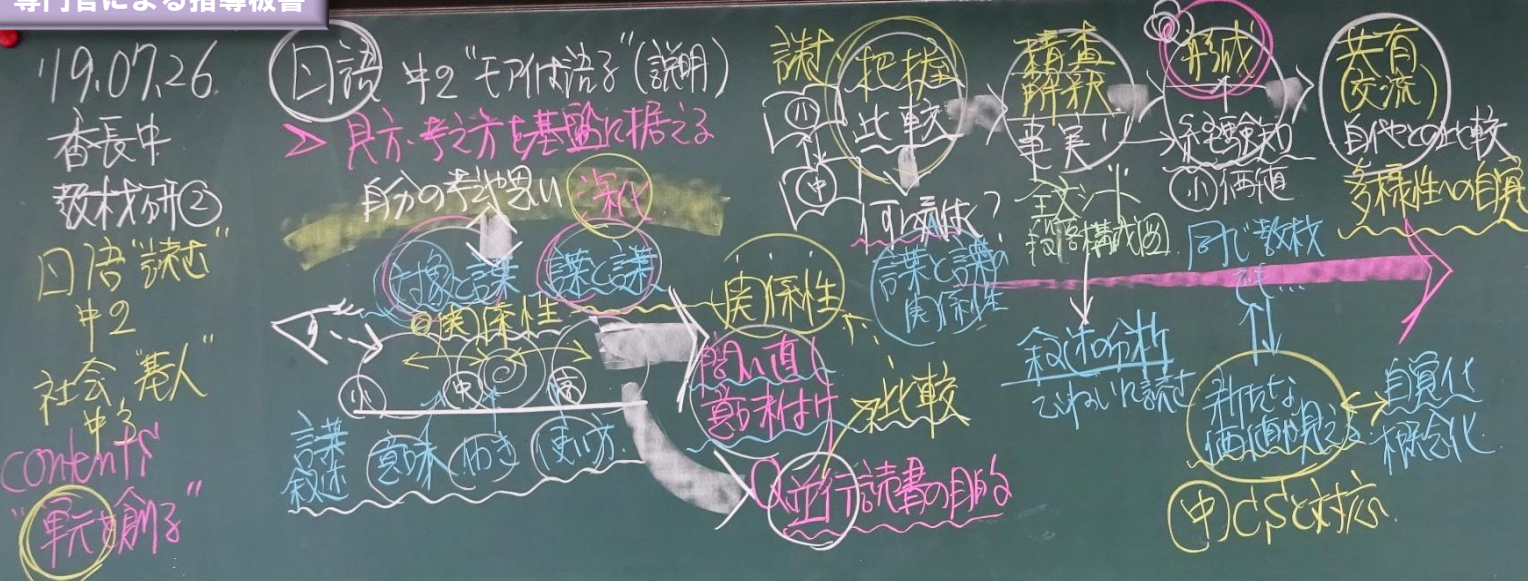
**課題の所在** 読解力や言語に関する知識・理解の定着が弱い生徒や語彙力が弱く、一つ一つの言葉の意味を認識し、他の言葉、文とのつながりや論理的に思考することが苦手な生徒が多い。そのため説明文での読解では、段落の関係や接続詞に着目して、論の展開を読み取ることに重点を置いて指導をしてきた。また、既習の文末表現を手掛かりに問いと答えを見つけるなど、言葉に着目をさせてきた。

**目指す子供の姿** これまでに学習してきたことを基にして、同じ題材を扱った説明文について、文章の構成や展開、表現に着目して読み比べることで、筆者がなぜそのような構成にしたのか、論理の展開に飛躍がないのか、表現が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているのかということなどについて、自分なりの考えを持っている子供の姿を目指したい。

**専門官による指導板書**




**ここがポイント!**



小学校のときに取り扱った教材と中学校で扱う教材を比較させながら、それぞれの文章の叙述を正確に読み解く中で、中学2年生として、今何を学ぶのかを明確にしなが読み進むことが大切です。今回の並行読書の一番の目的は“比較”です。比較することによって、文章の中の関係性をより深化させていきます。全文シートを活用するのであれば、小学校と中学校の2つの教材の文章を対比させながら、“何が違ってどうなったのか”“ここが変わったことによって、中学生になった自分たちが読める範囲がどれだけ広がったのか”“どんなことが今までにない事実として見えてきたのか”などについて、捉えていくことが肝要です。

特に、最初に2つの教材を比較させたときに、生徒が気付いたことに対しての内容の確認とともに、それを構造化し整理していくことが重要です。生徒は、その気付いたことによって、対象と言葉、言葉と言葉の関係性に興味が高まります。そして、「なぜ、2つの文章はそんなに違うんだろうか」「何が言いたいんだろうか」「筆者は読者に何を訴えたいのだろうか」と、そこから“問い”が生じ、それを追求していくことが大切です。

したがって、単元の入り口での比較を通して、学び進む方向性を丁寧に描き、生徒に並行読書をする価値を自覚させていくことがポイントとなります。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業」教材研究会レポート No.4-②

**南国市立香長中学校 教材研究会**  
 令和元年7月26日(金)  
**社会科 第3学年「人間を尊重する日本国憲法」**  
 提案者 社会科部会



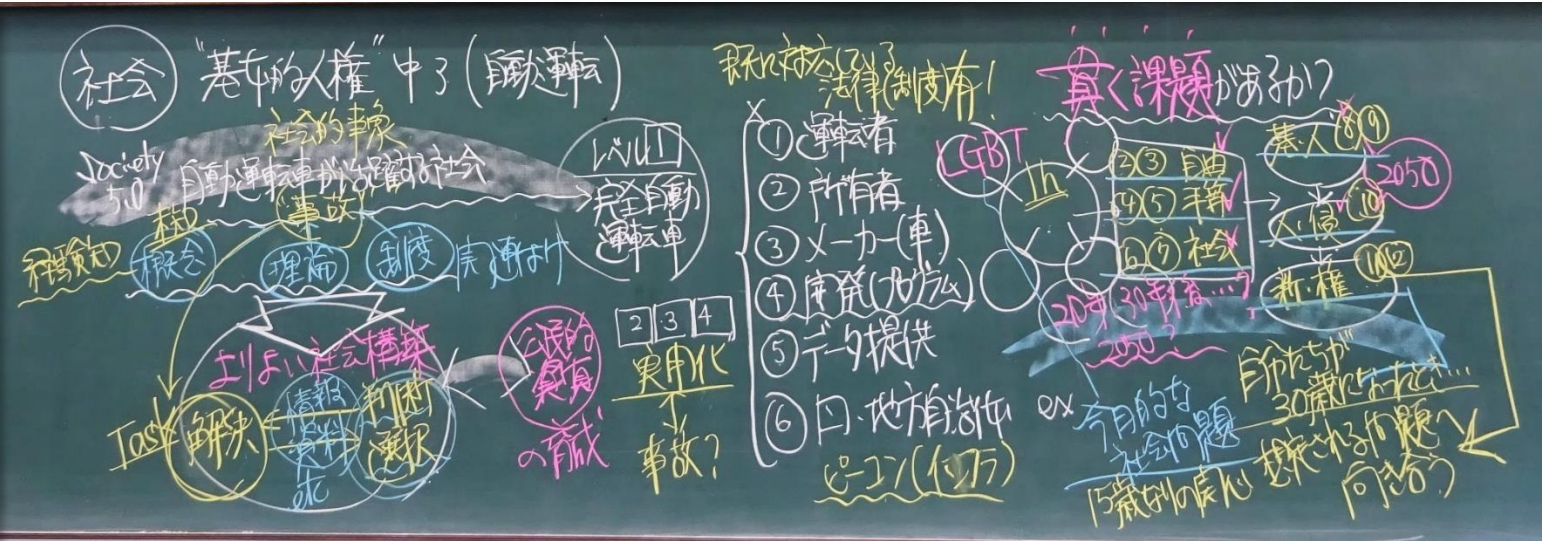
模擬授業最終板書

**課題の所在** 社会科の学習への興味や関心は高いが、公民的分野においては、抵抗感を持つ生徒や関心が低い生徒がいる。また、学んだことを実生活に生かしている生徒が少ないことが課題である。そこで、本単元では、日本国憲法で保障されている基本的人権を日常生活と関連付けて考えさせ、身近なところから問いを持たせ、生徒にとって自分事とすることで、付けたい力の育成を目指す。

**目指す子供の姿** 日本国憲法に定められている基本的人権や社会の変化に伴って生まれた新しい人権について、多面的・多角的に考察し、国民主権を担う公民として民主主義への理解を深め、現代社会に見られる課題について公正に判断する力を身に付けている子供の姿を目指したい。



専門官による指導板書



**ここがポイント!**

公民的資質の育成は、社会科の究極の目標です。今回は、自動運転車が活躍する Society5.0 の時代という社会的事象において、「自動運転で起こる事故」の課題を解決するために、いろいろな状況から情報を選択する中で、自分なりの考えを持ち、物事を判断していきます。この判断をするためには、様々な情報や資料を材料にしないといけません。すなわち、判断をする拠り所が重要です。

車の運転は、生徒にとっては未経験の事です。今日のような教材を扱うのであれば、生徒が今までに経験してきたことをベイスに「きっとそうじゃないかな」と考えていく中で、それが感覚的な判断になってしまわないようにすることが大切です。つまり、物事を判断する拠り所をしっかりと示しておいて、判断することの裏付けをさせていくことが肝要です。

この単元の大きなテーマは、20年後、30年後はどうなっているかということです。したがって、今日的な社会問題を 15 歳なりの関心事として整理していきながら、今の権利を見つめて 2050 年の時代をどう描いていくか、単元を通してそのことを生徒が考えていくことができるようにしていくことがポイントです。そのためには、教師の深い教材研究が求められます。

協議の視点

\*本単元で付けたい力にせまるための単元構成になっているか。

〔国語科〕自分なりの結論を持つために、観点を明確にして比較しながら読めるような単元構成になっているか。  
〔社会科〕単元で付けたい力に向けた各時間の問い、学習内容が自分事になるような各時間の問いになっているか。

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトを check!



研究協議

協議では、「単元を通して、筆者の主張に対する関わりが弱いのではないか。」「観点を決めて表現の違いを見取らせていく中で、生徒が内容に着目できるように、教師が工夫をしていくとよいのではないか。」「単元の導入部分で、“安心、安全な生活とは”という問いを生徒から引き出し、それをもとに毎時間を構成していったらどうか。」「多面的な視点から考えていくには、もっと具体性が必要ではないか。」などの意見が出されました。



生徒が自らの考えや思いを国語という学びを通していかに深化させていくか

国語の「把握」「精査・解釈」「形成」「共有」の学びのプロセスの中で、「形成」はとても重要です。この「形成」は自らの経験が入ります。つまり、自分なりの考えを盛り込むということです。だからこそ、小学校の教材と比較する価値が出てきます。今まで自分が勉強してきたことや感じてきたことを中学校の教材に盛り込んで見てみると、同じ教材でも新たな価値が見えてきます。そのことを生徒に自覚化させ、概念化（問い直し、意味付ける）させることが大切です。さらに、「共有」で自他のとの交流を通して、自分の

中の多様性を自覚させるようにすることも大切です。すなわち、他者との交流で自己の考えを触発させられるようにしていくことが大事なこととなります。



単元を貫く課題はあるか

今回の単元で示されている大きなテーマ（課題）は、単元を貫くものになっているのか、その視点から再度単元構成を見直す必要があります。

自由権、平等権、社会権などのそれぞれの権利を一つ一つ学ぶ単元構成であれば、それは従来型の内容ベースの授業になります。大きなテーマというのは、2050年はどうなるかということです。そのためには、単元の入り口で、20年後、30年後はどうなっているのかということを考えさせる時間を十分に設定し、そこで出てきた問題を様々な権利を学習することを通して解決していき、そのなかで生徒が30歳になったときに想定される問題に向き合うようにしていくことが必要です。つまり、単元の終盤に「新しい権利」の学習をするのではなく、将来、超高齢化社会になったときに、今の権利で保障されているものが守られるのかという視点から、今の権利を見つめて、2050年を描いていくことが肝要です。

単元を貫く課題にしていくには、単元を通して、常に2050年のことが生徒の頭の中にあるようにしていくことが大切です。

研究協議から見てきたこと

見方・考え方を捉え、それをベースに単元構想をしていくことが必要であり、小・中・高の関連を見通した単元づくりが大切であると分かりました。また、生徒の気付きを構造化し、小学校との学びの違いに気付かせる問いを設定していきたいと思えます。

国語科部会

単元を貫く課題をいかに生徒自身にもたせることができるかで、その単元の学習の深まりが大きく異なってくるということを再認識することができました。また、単元のゴールイメージをつくることやそれに向けての単元の導入の重要性に気付かされました。

社会科部会

参加者の声

- 子供たちにとって、考える必要性・切実さを感じられる単元ゴールを設定することを心がけていきたいです。二学期からの単元構想を見直していきたいです。
- 説明文を読ませる中で、本校でもどのような力を単元で付けていけばよいかを考えながら単元計画を立てています。しかし、生徒の思考を深化させるには至っていないことが多く、思考の形成を中心にした単元をつくっていく必要性を感じました。

- 生徒が言葉に向き合い、学んだ力を自ら自覚し、概念化できるような単元にしていきたいです。
- 生徒たちが、これからの社会で必要となってくる力を身に付けることを見据えた授業をつくってきたいです。
- 単元を貫く課題に対して、多面的・多角的な視点で考えさせ、内容ベースではない単元づくりをしていきたいです。
- 一単位時間の授業だけでなく、単元を通じて生徒を育てていきたいと思えます。そして、自分自身が教科の見方・考え方を基盤に捉えることを意識しながら、単元をつくってきたいと思いました。

資質・能力ベースの授業に期待されていることに関心を持ちながら、大胆かつ繊細に授業づくりの新しい時代の扉をともに開きませんか？

check!

次回 令和元年11月21日(木) 教材研究会 13:35から 数学科・英語科